

方にこそニュースがある

関西 知 探 解

G20控え 宗教者が政策提言

AIが突きつけた「人間性とは」

「生命の尊厳」は科学者に響くか

大阪市で行われる20カ国・地域(G20)首脳会議(サミット)を前に、世界各国の宗教指導者らが大規模な社会問題話し合う異色の会議が京都市で開かれた。その名も「G20諸宗教フォーラム2019」。人工知能(AI)や生命科学といった課題に、仏教の僧侶やキリスト教の神父・牧師、イスラム教の聖職者など約140人が危機感を持ち、知恵を出し合ったのだ。世俗の政治を離れた宗教者の視点から政策提言を行い、G20サミットの議論に補助線を引く役割を果たすとしている。

フォーラムは6月11、12の2日間、JR京都駅前のカンパンスプラザ京都(下京区)で8つの分科会が行われた。中でも注目を集めたテーマが「AIの脅威と責任」と「生命科学と宗教」だった。

AIの台頭は、裏を返せば人間性とは何かという問いをも突きつけている。東京大工学部物理工学科卒で、化学メーカーでの勤務経験がある宗教法人「むつみ会」の滝澤俊文宗務長は「どんなにAIが発達しても、人間の知性とはまったく異なる。アンドロイドを人間のように錯覚することは警鐘を鳴らしたい」と述べた。

同日にあり、JR京都駅前のカンパンスプラザ京都(下京区)で8つの分科会が行われた。中でも注目を集めたテーマが「AIの脅威と責任」と「生命科学と宗教」だった。AIの脅威と責任では、神職の資格を持つ奈良女子大の才藤直樹教授(人間情報学)が、巡航ミサイルから自動走行車までさまざまな製品にAIが活用されている現状を紹介。人間をサポートする利点がある半面、悪意を持つ悪意を持つAIが活用されている現状を紹介。人間をサポートする利点がある半面、悪意を持つ悪意を持つAIが活用されている現状を紹介。

胎児の染色体異常を調べる「生命科学(宗教)では、人材の育成など、世俗的な取組が必要だと結論づけ

- G20諸宗教フォーラム参加国
1 日本
2 スイス
3 レバノン
4 ボスニアヘルツェゴビナ
5 サウジアラビア
6 スウェーデン
7 米
8 オーストラリア
9 新疆ウイグル自治区(中国)
10 フランス
11 マリタ
12 カタナ
13 イスラエル
14 オランダ
15 イタリア
16 ミャンマー



G20諸宗教フォーラム(2019)に出席した全国の宗教指導者の11日、京都市上京区(永田直也撮影)



G20諸宗教フォーラムで議論された8つの分科会

- グローバルコンパクト
経済政策について、自国第一主義を優先すべきか、国際協調主義を取るべきかについて議論
気候変動
AIの脅威と責任
レジリエント社会
自然災害や人口減少をはじめとするさまざまな危機に対し、粘り強くしなやかに対応し、魅力と活気に満ちたレジリエント都市の実現に向けた取り組みについて議論
生命科学与宗教
抑圧された人々と共に生きる
少子高齢化問題
格差社会と貧困

経済成長 負の側面に着目

G20諸宗教フォーラムは、先進8カ国(G8)主要国首脳会議に合わせて宗教界の声を届けてきた。G8宗教指導者サミットを前身としている。経済や政治の枠組みだけでなく、宗教を含めたあらゆる

る英知を結集させ、地球規模の課題に取り組むべきとの考えが根拠に組むべきとの。世界経済の協調の舞台が新興国を加えたG20体制に移行しつつあることなどを踏まえ、2014年からは毎年G20サミットに合わせて開催国で行われている。今回は16カ国が参加し、格差がもたらす貧困やビジネス競争が招く人権侵害など、経済成長の負の側面に着目した。トランプ米大統領が主張する自国第一主義の台頭などの国際情勢も踏まえた上で、分科会のテーマを設定したという。



田中 幸美
たなか さちみ
埼玉県生まれ。東京本社で約10年間カメランとして勤務し、その後記者に転身。東京本社文化部や横浜総局などを経て、現在は京都総局で宗教と文化を担当する。神社とお寺巡りが好きで、御朱印帳は約20冊にのぼる。